古英語 ahyldan とラテン語 declinare について

石　原　　覚

I

以下は、敵からの危害について述べたウルガータ（Vulgata）[1]の詩篇の一節である。ここでは「傾ける」などの意味を表す動詞 declinare が用いられている。

(1)　a voce inimici et a tribulatione peccatoris quoniam *declinaverunt* in me iniquitatem et in ira molesti erant mihi (Ps 54:4)[2]
（敵の声と罪人による苦難に［私は取り乱した］。彼らが私に不正を傾け（そらし）、怒って私を悩ませたからである。）

「傾ける」などの意味を共有するため、古英語の動詞 ahyldan は、後に示すように、しばしば declinare および接頭辞の異なるラテン語の動詞 inclinare の訳語となるが、(1) の declinare にも、古英語の詩篇行間注解（Psalter glosses）[3]のうち C、D、F、I、K では、次のごとく ahyldan が注解として当てられている。[4]

(2)　. . . forðon hi *ahildon* on me unrihtwisnysse . . . (PsGlF 54.4)

注目すべきなのは、(2) が *DOE*（A. Cameron et al., *Dictionary of Old English: A to G on CD-ROM*), s.v. *ahyldan* A.2.d の「敵対行動の想念と共に」（“with the notion of hostile action”）の i「（何らかの害悪を）傾ける、下す、与える」（“to bend down, bring down, inflict (some evil)”）において例として挙げられていることである。

本稿では、(1) の declinare に与えられた注解の ahyldan の表す意味については、この *DOE* の解釈とは別の解釈もあり得るのではないかということを指摘したい。

II

本章では、ahyldan と inclinare が共有する意味を持ち、しばしば前者が後者の訳語となることを示す。

まず ahyldan は、次の尊敬の姿勢について用いられた例のごとく、「下へ傾ける」の意味を持つ。

(3) Oððon hwilcan geþance mæg ænig man æfre geþencan on his mode, þæt he to sacerdan heafod *ahylde* & bletsunge gyrne & heora mæssan on cyrcan gestande . . . & sona þær æfter hy hrædlice syððan scyrde oððe scynde mid worde oððe weorce? (LawGrið 27)[5)]

（また誰が心に思うことができようか――司祭たちに頭を下げ、祝福を求め、彼らのミサに出て、……そのあとすぐさま彼らを言葉や行いで傷付け、侮辱することを。）

次にこの動詞は、以下の傾聴について用いられた例のように、比喩的に「(…に）傾ける」の意味を表す。

(4) Godes eagan synd ofer þa rihtwisan. & his earan beoð *ahylde* to heora benum; (ÆHomM 12 64)[6)]

（神の目は正しい者たちの上にあり、彼の耳は彼らの祈りに傾けられる。）

一方 inclinare は、まず次の (5)(6) に見られるごとく、物質的に「(…に）傾ける」の意味を表す。(5) では外科用さじを、(6) では首を、ある方向に曲げることについて、この動詞は用いられている。

(5) Ubi iniectus est, in utrumque latus *inclinandus* est, ut appareat calculus si teneatur; (CELS. 7.26.2.K)[7)]

（それ［専用のさじ］を［膀胱の頸部に］挿入したら、結石が捕らえられているかどうかわかるように、それを両方向に傾けねばならない。）

(6) Observandum erit etiam ut recta sit facies dicentis, ne labra detorqueantur, . . . ne supinus vultus, ne deiecti in terram oculi, ne *inclinata* utrolibet cervix. (QUINT. *Inst*. 1.11.9)[8)]

（さらに、演説者の顔が真っ直ぐになるように、唇がねじれないように、……顔が仰向かないように、目が地に落ちないように、首がいずれの側にせよ傾かないように、注意すべきであろう。）

次いで inclinare は、以下の (7)(8) におけるように、ahyldan と同じく「下へ傾ける」の意味を表す。

(7) Pallados arbor *inclinat* varias pondere nigra comas. (MART. 1.76.8)[9)]

（パラスの木［オリーブの木］は、黒くなると重みでまだらの頭髪を

下へ向ける。）

(8) qui enim humiliatus fuerit erit in gloria et qui *inclinaverit* oculos suos ipse salvabitur (Iob 22:29)[10)]

（卑しめられた者は栄光を与えられ、目を下げたものは救われるであろうから。）

さらに inclinare は、次の (9)(10) におけるごとく、ahyldan と同様比喩的意味において「(…に）傾ける」を表す。

(9) apparebatque inritatis animis plebem ad suos studia *inclinaturam*. (LIV. 4.25.14)[11)]

（平民がいらだった気分で、自らの仲間たちへとひいきを傾けるであろうことは明らかであった。）

(10) Eadem Hordeonius Flaccus praesens monuerat, *inclinato* in Vespasianum animo et rei publicae cura, cui excidium adventabat, . . . (TAC. *Hist*. 4.13)[12)]

（心がウェスパシアーヌスに傾き、……滅亡の危機が迫った国家を案じたホルデオニウス・フラックスは、現場で同様の注意を与えていた。）

以上示したように、ahyldan と inclinare は「下に傾ける」の意味を共に持つため、以下の (11)(12) に見られるごとく、前者は後者を訳すのに用いられる。（以下本稿では、ahyldan とラテン語との対応関係を例示する際には、古英語訳とラテン語原文を並べて引用する。）

(11) Min bearn. beo ðe wærr þæt ðu ne drince of ðam wine þe ðu be wege hyddest. ac *ahyld* hit wærlice. þonne gesihst ðu hwæt ðær oninnan sticað; He gecyrde ða mid sceame. and *ahylde* þæt win wærlice. and ðær gewende ut of ðam fæte an fah næddre; (ÆCHom II, 11 100.278)[13)]

（「我が子よ、お前が道中隠したぶどう酒［の容器］から飲まぬよう心して、それを注意深く下へ向けよ。さすれば中に何が潜んでいるかわかるであろう。」彼が恥じ入って戻り、そのぶどう酒を注意深く下へ向けると、その容器からまだらの蛇が出て来た。）

. . . sed *inclina* illum caute, . . . cum flasconem *inlinasset*, . . . (GREG.MAG. Dial. 2.18)[14)]

（……それを注意深く下へ向けよ。……彼が容器を下へ向けると、……）

(12) þa se hælend onfeng þæs ecedes. ða cwæð he. hyt ys geendod. & he *ahylde*

his heafod & agef his gast; (Jn (WSCp) 19.30)[15)]
（そこで救い主は酢を受けると、「終わった」と言った。そして彼は頭を下げ、霊魂を手放した。）
. . . et *inclinato* capite tradidit spiritum (Io)
（……そして彼は頭を下げ、霊魂を手放した。）

また、ahyldan と inclinare は「（…に）傾ける」の意味を共有する故に、次の (13)(14) におけるごとく、前者が後者の訳語となる例が見られる。

(13) *Ahyld* me þin eare to holde mode, and me lustum alys and me lungre weorð on god drihten georne þeccend . . . (PPs 70.2)[16)]
（情け深い心をもって私に耳を傾け、快く私を救い給え。そしてすぐに我が主なる神と、進んで守護者と……なり給え。）
inclina ad me aurem tuam et libera me . . . (PsRom)[17)]
（私に耳を傾け、私を救い給え。……）

(14) Gehyr þu min bearn. ðines fæder mynegunge. and þin eare *ahyld* to minum wordum nu. and mid geleaffullre heortan. hlyst hwæt ic secge. (ÆAdmod 1 1.1)[18)]
（我が子よ、お前の父の戒めを聞き、今私の言葉に耳を傾け、信仰心をもって私の言うことを聞け。）
. . . et *inclina* aurem tuam ad verba mea, . . . (PS.BASIL. Ad.fil.spir. 30.2)[19)]
（……私の言葉に耳を傾け、……）

III

前章では「傾ける」という意味を中心に ahyldan と inclinare の対応関係を見たが、本章では ahyldan ともう一つのラテン語 declinare との対応関係に目を向けたい。

前者にはさらに、以下の責め苦を免れることについて用いられた例のごとく、「（…から）そらす」の意味がある。

(15) Gif þu godum ussum gen gecwemest, ond þe to swa mildum mundbyrd secest, hyldo to halgum, beoð þe *ahylded* fram wraþe geworhtra wita unrim, grimra gyrna, þe þe gegearwad sind, gif þu onsecgan nelt soþum gieldum. (Jul 169)[20)]
（あなたが今からでも我々の神々をなだめ、かくも慈悲深い方々から

保護を、聖なる方々から恩恵を求めるのなら、残忍になされる果てしなき拷問、過酷な苦しみは――それはもしあなたが真の神々にいけにえを捧げようとしないのならあなたに用意されているのだが――あなたからそらされるであろう。）

この「（…から）そらす」の意味は、以下の (16)(17) におけるごとく、declinare にもその基本的語義として見出される。

(16) Omnia se a terris tunc numina *declinarunt*, fugit et auratos Iuppiter ipse thronos. (*Vers. Pop*. in Suet. *Aug*. 70.1)[21]

（すると神々は皆この世から遠ざかり、ユーピテル自身が黄金の玉座から逃げ出した。）

(17) sed opinor factum hoc primitus in militibus stupentis animi et a naturali habitu *declinatis*, ut non tam poena quam medicina videretur. (GEL. 10.8.2)[22]

（しかしこれ［瀉血（しゃけつ）］は、最初は、精神が麻痺し、本来の状態から逸脱した兵士たちになされたと私は推測し、よってそれは罰というよりむしろ治療と見られる。）

次の詩篇からの一節の declinare も、同じ「（…から）そらす」の意味で用いられている。

(18) et non recessit retrorsum cor nostrum et *declinasti* semitas nostras a via tua (Ps 43:19)

（我らの心はうしろに退かなかったが、あなたは我らの道筋をあなたの道からそらせた。）

この declinare は、古英語の詩篇行間注解の D、E、F、H、I、K において ahyldan へ訳されており、[23] その際ラテン語の「（…から）そらす」の意味が古英語に反映されていると言える。

次に、前章では「下へ傾ける」の意味を ahyldan と inclinare が共有することを示したが、以下の (19)(20) に見られるように、declinare も同じ意味を持つ。

(19) sed media cecidere abrupta iuventa gaudia florentesque manu scidit Atropos annos, qualia pallentes *declinant* lilia culmos pubentesque rosae primos moriuntur ad austros, (STAT. *Silv*. 3.3.128)[24]

（しかし若いさなかで喜びは引き裂かれて落ち、アトロポスが手ずから花盛りの年齢を断った。まさに百合が青白い茎を下へ曲げ、年頃の

バラが最初の南風で死ぬごとく。）

(20) Cum timerent autem et *declinarent* vultum in terram dixerunt ad illas quid quaeritis viventem cum mortuis (Lc 24:5)[25]

（彼女たちが恐れて顔を地に下げると、彼らは彼女たちに言った、「あなたたちはなぜ生者を死者たちの中に探すのか」。）

従って、次の (21)(22) におけるごとく、「下に傾ける」を意味する declinare を訳すのに ahyldan が用いられるということが起こる。

(21) Hwæt ða seo mynecynu ða ða heo his andsæc gehyrde. beclypte hire neb mid handum. and *ahylde* hire heafod to ðære mysan biddende þone ælmihtigan drihten; (ÆCHom II, 11 106.499)[26]

（さて、その修道女は、彼が断るのを耳にするや、顔を両手で挟み、頭を食卓へ下げて、全能の主に祈った。）

Sanctimonialis autem femina, . . . insertas digitis manus super mensam posuit, et caput in manibus omnipotentem Dominum rogatura *declinauit*. (GREG.MAG. Dial. 2.33.3)[27]

（修道女は、……指を組み合わせた手を食卓に置き、全能の主に祈るために、頭を手のところに下げた。）

(22) Ac uton ure heafdo *ahyldan* and þysse ceastre cægean þysum Romaniscan folce agyfan, forþam ðe we fullgeorne geseoð, þæt we elles wyðynnan þysum weallum hrywlicum deaðe forwurðan sceolon. (VSal 1 16.10)[28]

（我々の頭を下げて、この町の鍵をこのローマ人たちに渡そうではないか。さもなくば我々は、この城壁の中で悲惨な死をもって滅ぶことになるのは分かり切っているのだから。）

Declinemus capita nostra et tradamus claues istius ciuitatis ad Romanos . . . (Vind.salv. 16)

（我々の頭を下げて、この町の鍵をローマ人たちに渡そうではないか。……）

Ⅳ

注意すべきは、declinare が inclinare と同じ意味を表すのは、Ⅲで示したような「下へ傾ける」の意味だけではないということである。次の (23) において declinare は、あたかも inclinare のごとく、傾聴について用いら

れており、「(…に) 傾ける」の意味を表している。

(23) *declina* pauperi aurem tuam et redde debitum tuum et responde pacifica in mansuetudine (Sir 4:8)[29]

(貧者に耳を傾け、負債を支払え。そして温和に穏やかな言葉を返答せよ。)

次の (24) では inclinare が (13)(14) におけると同様比喩的に「(…に) 傾ける」の意味で用いられている。

(24) *inclina* cor meum in testimonia tua et non in avaritiam (Ps 118:36)

(我が心を、貪欲にではなく、あなたの証しに傾け給え。)

この (24) の inclinare を、注目すべきことに、Ambrosius (340?〜397)[30] は、以下のごとく declinare で表しており、これも「(…に) 傾ける」を意味する declinare の用例として挙げることができる。

declina cor meum in testimonia tua et non in auaritiam.[31]

ここで (13)(23)(24) のギリシャ語原文、すなわち七十人訳聖書 (LXX)[32] においてに対応する箇所である以下の (25)〜(27) を見てみよう。すると「(…に) 傾ける」を意味する κλίνειν がこれらの箇所の inclinare の原語であることがわかる。

(25) *κλῖνον* πρός με τὸ οὖς σου καὶ σῶσόν με. . . . (Ps 70:2)

(私に耳を傾け、私を救い給え。……)

(26) *κλῖνον* πτωχῷ τὸ οὖς σου . . . (Sir 4:8)

(貧者に耳を傾けよ。……)

(27) *κλῖνον* τὴν καρδίαν μου εἰς τὰ μαρτύριά σου . . . (Ps 118:36)

(我が心を、……あなたの証しに傾け給え。)

LXX における κλίνειν の同様の例としては、さらに以下の (28) を挙げることができる。

(28) καὶ ἐπ᾽ ἐμὲ *ἔκλινεν* ἔλεος ἐν ὀφθαλμοῖς τοῦ βασιλέως καὶ τῶν συμβούλων αὐτοῦ καὶ πάντων τῶν ἀρχόντων τοῦ βασιλέως τῶν ἐπηρμένων. (Esdr II 7:28)[33]

(彼［神］は、王とその顧問たち、そして王のすべての高位の指導者たちの見る前で、私に恩恵を傾けた。)

次の、敵による悪事について述べた詩篇の一節には declinare が用いられている。

(29) quoniam *declinaverunt* in te mala cogitaverunt consilia quae non potuerunt

stabilire (Ps 20:12)

（彼ら［あなたの敵］があなたに害悪を傾けた（そらした）からである。彼らは計画を企てたが、それを達成することができなかった。）

この declinare は、以下の (29) のギリシャ語原文が示すように、(25)〜(28) に見られるのと同じ「(…に）傾ける」を意味する κλίνειν に由来する。

(30) ὅτι *ἔκλιναν* εἰς σὲ κακά, . . . (Ps 20:12)[34]

（彼らがあなたに害悪を傾けたからである。……）

従って、(29) の declinare は、(23) のそれと同じく、ギリシャ語原文の κλίνειν の「(…に）傾ける」の意味を反映していると考えられる。[35]

ここで重要なのは、(29) の declinare が、何らかの災いを人に向けることについて用いられている点で、問題の (1) の declinare と同じ用法を示していることである。よって (1) の declinare も (29) のそれと同様「(…に）傾ける」の意味でとらえられることがわかる。

(29) の declinare は古英語の詩篇行間注解のうち、D、E、F、G、H、I、K において ahyldan へ訳されている。[36] この動詞が「(…に）傾ける」の意味を表すことは、すでに (4)(13)(14) で見たとおりである。

故に、(1) の declinare が I で示したごとく 5 つの行間注解において ahyldan に訳される際、また (29) の declinare が上記 7 つの行間注解において ahyldan に訳される際、declinare の「(…に）傾ける」の意味が古英語に表されていると考えられる。

以上から、I に引用した (1) の declinare を訳す ahyldan についての *DOE* (s.v. *ahyldan* A.2.d.i) の解釈は、妥当なものであると考えられる。

V

前章において (1) の declinare を訳す ahyldan が *DOE* の指摘するように「(…に）傾ける」の意味でとらえられることを示したが、本章では、その *DOE* のとらえ方とは別のとらえ方も可能であることを示したい。

その際まず重要なのは、declinare が、(16)〜(18) で見られた「(…から）そらす」の意味においてのみならず、どこへそらすのかを明らかにして、「(…に）そらす」の意味でも現れることである。この動詞は、(23) において「(…に）傾ける」を意味し、単にある対象に向かわせることについて用いられているが、他方以下の (31)〜(34) においては、「(…に）そらす」

の意味で、本来向かわせるべき対象とは別の対象へと転ずることに用いられている。(31) では船出したアキレウスが視線を戻したことについて、(32) では骨折により鼻がゆがむことについて、declinare は用いられている。

(31) ille quoque obliquos dilecta ad moenia vultus *declinat* viduamque domum gemitusque relictae cogitat: (STAT. *Ach*. 2.28)[37]
（彼もまた横顔を親しい城壁へとそらし、夫を亡くした家と残された女の悲嘆を思った。）

(32) si a latere os fractum est, is locus cavus est; si cartilago, in alteram partem nares *declinantur*. (CELS. 8.5.1)[38]
（もしも［鼻の］片側で骨が折れるならば、その部分は凹むが、もしも軟骨［が折れる］ならば、鼻はもう一方の側へと曲がる。）

以下の二例[39] では、ある状況をもたらした原因（ないしは責任）を、本来帰する（ないしは負わせる）べきものとは別のものに転ずるのに declinare は用いられている。

(33) Ad hoc rumoribus adversa in pravitatem, secunda in casum, fortunam in temeritatem *declinando* corrumpebant. (SAL. *Hist*. 2.15)[40]
（その上うわさでは、不運は邪悪の、成功は偶然の、幸運は無謀のせいにされて台無しにされた。）

(34) orditurque magnifica de auspiciis imperatoris rebusque a se gestis, adversa in inscitiam Paeti *declinans*, (TAC. *Ann*. 15.26)[41]
（彼は皇帝の鳥占いと自分の手柄について得意になって話し始め、逆境はパエトゥスの無知に転嫁した。）

(18) の declinare は、以下の (18) のギリシャ語原文が示すごとく、「(…から）そらす」を意味する ἐκκλίνειν に由来する。

(35) . . . καὶ *ἐξέκλινας* τὰς τρίβους ἡμῶν ἀπὸ τῆς ὁδοῦ σου. (Ps 43:19)
（……あなたは我らの道筋をあなたの道からそらした。）

注目に値するのは、ἐκκλίνειν が、declinare がそうであるごとく、「(…から）そらす」の意味のみならず、逸脱させる方向を表す表現を伴い、「(…に）そらす」の意味でも見出される事実である。この動詞は、(25)〜(28)(30) で見たように、単にある目標に向かわせることについて用いられる κλίνειν とは異なり、次の (36)(37) におけるごとく、「(…に）そらす」の意味で、本来至らせるべき目標とは別の目標へと転ずることについて用いられる。(36) では自分の羊の毛を刈る場所へ向かっていたユダが道を変え

たことについて、(37) ではダビデが契約の箱の運び先をエルサレムから変更したことについて、ἐκκλίνειν は用いられている。

(36) ἐξέκλινεν δὲ πρὸς αὐτὴν τὴν ὁδὸν καὶ εἶπεν αὐτῇ Ἔασόν με εἰσελθεῖν πρὸς σέ· (Gen 38:16)[42]

（彼は彼女の方へと道をそらし、彼女に「あなたのところへ入らせてくれ」と言った。）

(37) καὶ οὐκ ἀπέστρεψεν Δαυιδ τὴν κιβωτὸν πρὸς ἑαυτὸν εἰς πόλιν Δαυιδ καὶ ἐξέκλινεν αὐτὴν εἰς οἶκον Αβεδδαρα τοῦ Γεθθαίου. (Par I 13:13)

（そこでダビデは［神の］箱を自分のところへ、ダビデの町の中へと移さず、それをガト人アベッダラの家の中へとそらした。）

問題の (1) の declinare は、以下の (1) のギリシャ語原文から分かるように、(36)(37) に見られるのと同じく、どこへ逸脱させるのかが明示された ἐκκλίνειν を訳したものである。

(38) . . . ὅτι ἐξέκλιναν ἐπ᾽ἐμὲ ἀνομίαν . . . (Ps 54:4)[43]

（……彼らが私に不正をそらせ、……）

(31)〜(34) で見たごとく、declinare は「（…に）そらす」の意味を表す。従って (1) の declinare は、ギリシャ語原文の ἐκκλίνειν の持つ「（…に）そらす」の意味を反映していることがわかる。実際、Theodorus Mopsuestenus（350頃〜428）によるギリシャ語の注釈を、Iulianus Aeclanensis（380〜455頃）がラテン語に翻訳したものの要約（epitome）では、(1) について以下のごとく記されている。

Quoniam declinauerunt in me iniquitatem. Iniquam persecutionem; fuderunt in me crudeliter quicquid ipsi afflictionum iustissime merebantur.[44]

（「彼らが私に不正をそらしたからである。」不当な迫害を［そらしたのである］。彼らが当然受けるべきあらゆる苦しみを、残忍に私に注いだ。）

また、Haymo（853没）も (1) について次のように述べている。

Vel iniquitates suas removendo a se declinaverunt in me, vocantes me peccatorem, etc.,[45]

（ないしは、私を罪人と呼ぶなどして、自分たちの不正を自分たちから取り除くことにより、私にそらした。）

これらの (1) についての二つの解釈では、不正（iniquitas）が本来帰せられるべき（ないしはそれをこうむるべき）人が示されていることが共通し

ており、declinare が「(…に) そらす」の意味を持つことに基づいて (1) が解釈されているのがわかる。

何らかの災いを目的語に取り、さらに人を対象としているという点では、(29) の declinare は (1) の declinare と同じ使われ方をしていると言え、(29) の declinare も (1) のそれと同様「(…に) そらす」の意味でとらえられることになる。[46] 例えば Augustinus (354〜430) は (29) について以下の解釈を記している。

> *Quoniam declinauerunt in te mala*. Haec autem poena retribuetur eis, quoniam mala quae sibi imminere te regnante arbitrabantur, in te occidendum detorserunt.[47]
>
> (「彼らがあなたに害悪をそらしたからである。」この罰は彼らに報いられるであろう。彼らは、あなたが支配すれば自分たちに降り掛かるものと信じた害悪を、あなたに転じて殺したからである。)

また Cassiodorus (477頃〜570頃) も (29) について

> *Quoniam declinauerunt in te mala*, . . . *Declinare* dicimus *mala* supra alios pendentia, in alio loco sine iniquitatis causa relidere, quod in passione Domini constat effectum. Nam cum putarent Iudaei imperium romanum sibi fore perniciosum, si Regem Saluatorem Dominum suscepissent, in ipsum uisi sunt *mala declinare*, quae sibi credebant Romanis ulciscentibus euenire.[48]
>
> (「彼らがあなたに害悪をそらしたからである。……」「そらす」というのは、ある者たちに降り掛かる「害悪を」、不正のいわれのない他の場所へ打ち返すことである。このことが主の受難において起こったのは明らかである。なぜなら、もしユダヤ人たちが救い主である主を王として受け入れたなら、ローマ帝国が自分たちを滅ぼすであろうと考えたとき、報復するローマ人たちから自分たちにもたらされると信じた「害悪を」彼に「そらし」たと見られるからである。)

と述べているが、これら二人の教父の解釈では、ともに害悪 (mala) が本来向けられるはずであった人が挙げられており、(29) の declinare が「(…に) そらす」の意味であることが前提とされているのに気付く。

従って、(1)(29) の declinare は、前章で明らかにしたごとく、「(…に) 傾ける」の意味でとらえられるのみならず、「(…に) そらす」の意味でもとらえられることが了解される。

重要なのは、次の (39) に見られるごとく、ahyldan も declinare と同じく、

どこへ逸脱させるのかを表す表現を従えて、「(…に）そらす」の意味を持つ――すなわち本来進めるべき方向とは異なる方向へ曲げることについて用いられる――という事実である。ここで ahyldan は聖人となる王の生き方について使われている。

(39) He wæs eadmod. and geþungen. and swa anræde þurhwunode þæt he nolde abugan to bysmorfullum leahtrum. ne on naþre healfe he ne *ahylde* his þeawas. ac wæs symble gemyndig þære soþan lare. (ÆLS (Edmund) 16)[49]
（彼は謙虚で徳が高く、毅然とした態度を保ったので、恥ずべき罪に屈することなく、またその行いをいずれの側にもそらすことなく、常に真の教えを念頭に置いていた。）

故に、古英語の詩篇行間注解において (1)(29) の declinare に与えられた注解の ahyldan は、前章で示したように、declinare の「(…に）傾ける」の意味を反映していると見られるだけでなく、その「(…に）そらす」の意味を表しているとも考えられることになる。[50]

以上から、Ps 54:4 の declinare に与えられた注解の ahyldan については、それが

1．「(…に）傾ける」を意味し、単に何らかの害悪をある人に及ぼすことについて用いられている
2．「(…に）そらす」を意味し、何らかの害悪を、それを被るはずの人とは別の人に及ぼすことについて用いられている

という二通りの解釈が成り立つことがわかる。Ⅰで示したとおり *DOE* は1の解釈の側になっており、*DOE* の解釈とは異なる解釈もあり得ると結論できる。

注

1）R. Gryson et al., *Biblia Sacra iuxta vulgatam versionem*, 4. Aufl. (Stuttgart, 1994).

2）古英語のテキストの略記と引用の仕方は、原則として、*DOE*（A. Cameron et al., *Dictionary of Old English: A to G on CD-ROM* (Toronto, 2008)) に従い、ラテン語のテキストのそれは、原則として、同辞典または *OLD* (P. G. W. Glare, *Oxford Latin Dictionary* (Oxford, 1982)) に従う。なお、頭に括弧付の番号を振った、古英語、ラテン語およびギリシャ語の引用文中のイタリック部分は、すべて筆者によるものである。

3）古英語の各種詩篇行間注解は A～K で表す。それぞれのテキストは以下の

通り。A=*The Vespasian Psalter*, S. M. Kuhn (Ann Arbor, 1965); B=*Der altenglische Junius-Psalter*, E. Brenner, AF 23 (Heidelberg, 1908; Nachdr. Amsterdam, 1973); C=*Der Cambridger Psalter*, K. Wildhagen, Bib. ags. Prosa 7 (Hamburg, 1910; Nachdr. Darmstadt, 1964); D=*Der altenglische Regius-Psalter*, F. Roeder, Studien zur englischen Philologie 18 (Halle, 1904; Nachdr. Tübingen, 1973); E=*Eadwine's Canterbury Psalter*, F. Harsley, EETS 92 (London, 1889); F=*The Stowe Psalter*, A. C. Kimmens, (Toronto, 1979); G=*The Vitellius Psalter*, J. L. Rosier, (Ithaca, NY, 1962); H=*The Tiberius Psalter*, A. P. Campbell, Ottawa Mediaeval Texts and Studies 2 (Ottawa, 1974); I=*Der Lambeth-Psalter*, U. Lindelöf, Acta Societatis Scientiarum Fennicae 35, 1 (Helsingfors, 1909); J=*Der altenglische Arundel-Psalter*, G. Oess, AF 30 (Heidelberg, 1910; Nachdr. Amsterdam, 1968); K=*The Salisbury Psalter*, C. Sisam and K. Sisam, EETS 242 (London, 1959).

4）A、B、E、J では接頭辞の異なる onhyldan へ、G では hyldan へ訳されており、H では訳されていない。

5）F. Liebermann, *Die Gesetze der Angelsachsen*, 1 Bd. (Halle, 1903), p. 472. (3) は *DOE*, s.v. *ahyldan* A.1 の「物質的、下方について：下へ曲げる、かがめる、傾ける」(“physical, of downward direction: to bend down, bow down, incline”) の a「(苦しみ、祈り、敬意、服従、恐れなどの身振りで) 頭や顔を下げる」(“to incline one's head or face (in a gesture of suffering, prayer, respect, submission, fear, etc.)”) に挙げられている例である。

6）R. Brotanek, *Texte und Untersuchungen zur altenglischen Literatur und Kirchengeschichte* (Halle, 1913), p. 6. (4) は *DOE*, s.v. *ahyldan* A.2 の「比喩的：傾ける、曲げる」(“figurative: to incline, bend”) の a「好感の想念と共に」(“with the notion of a favourable disposition”) において、i の「耳を傾ける」(“*eare ahyldan* ‘incline one's ear’”) という表現の例に挙げられている。

7）W. G. Spencer, *Celsus: On Medicine, Books VII–VIII*, Loeb Classical Library (LCL) 336 (1938), p. 434. (5) は *OLD*, s.v. *inclino* 1 の「垂直な、または水平な位置から動かす、傾斜させる、曲げる、傾ける、など；(受動態、再帰形、または自動詞) 一方に傾く」(“To move out of the vertical or horizontal, cause to lean or slope, bend, tilt, incline, etc.; (pass., refl., or intr.) to lean to one side”) に挙げられている例である。

8）D. A. Russell, *Quintilian: The Orator's Education, Books 1–2*, LCL 124 (2001), p. 240. (6) は *OLD*, s.v. *inclino* 1b の「(体、またはその部分を (が))」(“(the body or its parts)”) に挙げられている例である。

9）D. R. S. Bailey, *Martial: Epigrams*, vol. 1, LCL 94 (1993), p. 98. (7) は *OLD*, s.v. *inclino* 3 の「(頭などを) 下方へ曲げる、下げる」(“To bend downwards, bow (the head, etc.)”) に挙げられている例である。

10）(8) は *TLL* (*Thesaurus Linguae Latinae* (Leipzig, 1900–)), s.v. *inclino* IA1 の「様々な目的語と共に」(“c. var. obi.”) のもと、b の「体の部分を」(“partes corporis”) 目的語とする例に挙げられている。

11）B. O. Foster, *Livy: History of Rome, Books III–IV*, LCL 133 (1922), p. 338. (9) は *OLD*, s.v. *inclino* 9 の「……（人について、心や同情を）与えられた方向に傾ける」(“. . . (of a person) to bend (one’s mind, sympathies) in a given direction”) に挙げられている例である。

12）C. H. Moore, *Tacitus: The Histories, Books IV–V*, LCL 249 (1931), p. 24. (10) は *OLD*, s.v. *inclino* 9b の「(受動態または再帰形、人やその同情などについて、与えられた団体または主義、方針、見解などに）傾く」(“(pass. or refl., of a person, his sympathies, etc.) to incline (to a given party or cause, policy, point of view, etc.)”) に挙げられている例である。

13）M. Godden, *Ælfric’s Catholic Homilies: The Second Series, Text*, EETS s.s. 5 (London, 1979). (11) は T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary: Supplement* (Oxford, 1921), s.v. *ahildan* I の「字義通りの、下方について」(“literal, of downward direction”) の (1) に他動詞の例としてラテン語と共に挙げられている。ラテン語原文の対応箇所については M. Godden, *Ælfric’s Catholic Homilies: Introduction, Commentary and Glossary*, EETS s.s. 18 (Oxford, 2000), p. 439 参照。

14）A. de Vogüé, *Grégoire le Grand: Dialogues*, t. 2, SChr 260 (Paris, 1979), p. 194.

15）W. W. Skeat, *The Gospel according to Saint Luke and according to Saint John* (Cambridge, 1874, 1878; Nachdr. Darmstadt, 1970). (12) は *DOE*, s.v. *ahyldan* A.1.a に (3) と並んで挙げられている例である。

16）G. P. Krapp, *The Paris Psalter and the Meters of Boethius*, ASPR 5 (New York, 1932). PPs ではさらに 85.1; 114.2 において、「…に耳を傾ける」の表現で用いられた ahyldan がラテン語原文の inclinare に対応している。

17）R. Weber, *Le Psautier Romain et les autres anciens Psautiers latins*, Collectanea Biblica Latina 10 (Roma, 1953).

18）H. W. Norman, *The Anglo-Saxon Version of the Hexameron of St. Basil*, . . . 2nd ed. (London, 1849), p. 32.

19）P. Lehmann, *Die Admonitio S. Basilii ad filium spiritualem*, Sitzungsberichte der Bayerischen Akademie der Wissenschaften, Phil.-hist. Klasse, H. 7 (München, 1955).

20）G. P. Krapp and E. van K. Dobbie, *The Exeter Book*, ASPR 3 (New York, 1936), p. 117. (15) は *DOE*, s.v. *ahyldan* A.2.c の「回避の想念と共に：（苦痛を）そらす、避ける」(“with the notion of avoidance: to turn away, avert (torments)”) に挙げられている例である。

21）J. C. Rolfe, *Suetonius*, vol. 1, rev. ed., LCL 31 (1998), p. 254. (16) は *OLD*, s.v. *declino* 1 の「方向を変える、そらす」（“To change the direction of, deflect, divert, turn away”）に挙げられている例である。

22）J. C. Rolfe, *Aulus Gellius: Attic Nights, Books VI–XIII*, LCL 200 (1927), p. 234. (17) は *OLD*, s.v. *declino* 1c の「（ある精神状態や行動形式などから）そらす、散らす；（受動態）それる、はずれる；……」（“to divert (from a state of mind, form of behaviour, etc.), distract; (pass.) to stray, vary; . . .”）に挙げられている例である。

23）A、B、C、J では onhyldan へ、G では hyldan へ訳されている。なお、J では実際には “onlisdest” という形が用いられているが、Oess（p. 12）はそれを “onhildest” の代わりであるとして「原型の歪曲」（“Entstellungen der Vorlage”）のひとつに挙げている。

24）D. R. S. Bailey, *Statius: Silvae*, LCL 206 (2003), p. 210. (19) は *OLD*, s.v. *declino* 3b の「垂直な位置から傾ける、下へ曲げる」（“to incline from a vertical position, bend down”）に挙げられている例である。

25）(20) は *TLL*, s.v. *declino* IC1 の「convertere（転じる）と同じ、他所へ曲げる」（“i.q. convertere, alio flectere”）に「体およびその部分について」（“de corpore et partibus eius”）用いられた例として挙げられている。

26）(21) は Toller, s.v. *ahildan* I(2) に (11) と並んで挙げられている例である。ラテン語原文の対応箇所については Godden, *Commentary*, p. 446参照。

27）De Vogüé, p. 232. この箇所は A. Blaise, *Dictionnaire Latin-Français des Auteurs Chrétiens*, rev. par H. Chirat (Turnhout, 1954) の Addenda et Corrigenda, s.v. *declino* 7の「（本来的意味、祈る際に）深く傾ける」（“(sens pr.) incliner profondément (dans la prière)”）に挙げられている。

28）J. E. Cross, *Two Old English Apocrypha and Their Manuscript Source*, Cambridge Studies in Anglo-Saxon England 19 (Cambridge, 1996), p. 269.

29）*TLL* (s.v. *declino* IC1) は (23) を、それがギリシャ語原文の κλίνειν（傾ける）に対応することを示して、(20) と並べて挙げている。

30）以下生没年は T. Wittstruck, *The Book of Psalms: An Annotated Bibliography*, 2 vols. (New York, 1994), vol. 1 による。

31）C. Schenkl, “De Fuga Saeculi,” *Sancti Ambrosii Opera*, pars altera, CSEL 32 (Pragae, 1897; repr. New York, 1962), p. 163. Blaise (Addenda et Corrigenda, s.v. *declino* 6) は、この箇所を、詩篇118:36の引用であると示して、「inclino の代わりに」（“p. inclino”）に用いられた declinare の例として挙げている。

32）A. Rahlfs, *Septuaginta*, ed. altera (Stuttgart, 2006).

33）J. Lust et al., *A Greek-English Lexicon of the Septuagint*, rev. ed. (Stuttgart, 2003), s.v. κλίνω において (28) の “ἐπ᾽ . . . ἔλεος” は「彼は私に恩恵を施した」（“he

has given me favour”）と訳されている。

34）J. F. Schleusner (*Novus Thesaurus Philologico-Criticus: sive, Lexicon in LXX*, ed. altera, 3 vol. (Glasguae, 1822), s.v. κλίνω) は、(30) について「『ある人に害悪を傾ける』とは『ある人に対して邪悪な計画を立てる』ことである。それは、野獣にわなや網を張る狩人たちにより選択された隠喩である」（“κλίνειν εἰς τινὰ κακὰ est *consilia impia capere contra aliquem*. Metaphora desumta est a venatoribus, qui plagas et retia tendunt feris”）と解釈を記し、ここで κλίνειν があるものに対して標的を定める行為について用いられていることを示している。また Lust et al., s.v. κλίνω においても同様に (30) の “*ἔκλιναν* . . . κακά” は「彼らはあなたに対して害悪をもくろむ」（“they plan evil against you”）と解釈されている。

35）A. Schulte (*Die Psalmen des Breviers*, 2. Aufl. (Paderborn, 1917), p.75) は (29) を「彼らがあなたに対して害悪を引き起こしたからである。……」（“Denn sie richteten gegen dich Unheil an, . . .”）と訳しており、ラテン語原文の「…に害悪を傾ける」という表現の意味をより具体的に表している。

36）A、B、C、J では onhyldan へ訳されている。

37）D. R. S. Bailey, *Statius: Thebaid, Books 8–12; Achilleid*, LCL 498 (2003), p. 388. (31) は *OLD*, s.v. *declino* 1 に挙げられている例である。

38）Spencer, P. 518. (32) は *OLD*, s.v. *declino* 1b の「一直線の状態からずらす、曲げる」（“to put out of alignment, bend”）に挙げられている例である。

39）(33)(34) は *OLD*, s.v. *declino* 1d の「（意図や感情を；また責任などを）そらす」（“to divert (intentions, feelings; also, responsibility, etc.)”）に挙げられている例である。

40）B. Maurenbrecher, *C. Sallusti Crispi Historiarum Reliquiae* (1891−93; Stutgardiae, 1967), fasc. 2, p. 65.

41）J. Jackson, *Tacitus: The Annals*, books 13−16, LCL 322 (1937), p. 256.

42）(36) は Lust et al., s.v. ἐκκλίνω の「（ある物を）通常の進路からそらす、外側に（またはわきへ）そらす」（“*to bend out of the regular line*, *to bend outwards* or *away* [τι]”）の例として挙げられている。

43）Schleusner (s.v. ἐκκλίνω) は、(38) の “*ἐξέκλιναν* . . . ἀνομίαν” を「彼らは自分たちから、ないしは他の者たちから、罪を『取り除き』私に『負わせた』」（“a se aut ab aliis *removendo imputarunt* mihi peccatum”）と解釈し、ここで ἐκκλίνειν が、不正（ἀνομία）を無実の人に転嫁することについて用いられているのを明らかにしている。

44）L. de Coninck, *Theodori Mopsuesteni Expositionis in Psalmos Iuliano Aeclanensi Interprete in Latinum Versae Quae Supersunt*, CCSL 88A (Turnholti, 1977), p. 221.

45）J.-P. Migne, “Explanatio in omnes psalmos,” *Haymonis Halberstatensis Episcopi*

Opera Omnia, PL 116 (Turnholti), col. 378C. 一方 Haymo は (1) について、以下のような、この引用とは別の解釈を、その直前に記している――「［罪人による］苦難から、と言うのは適切である。『彼らが不正を』、すなわち死を、『私に傾けたからである』。私が彼らに何か適切なことを言っても、彼らは常に私に死を企て、私に傾けたがゆえに」（“Et bene dico a tribulatione, ‘quoniam ipsi iniquitatem,’ id est mortem, ‘declinaverunt in me,’ quia cum ego dicerem eis aliquid boni, ipsi tamen semper declinabant in me, machinantes mihi mortem (Migne, col. 378C)”）。ここでは不正（iniquitas）を本来負うべき人は示されておらず、よって declinare は「(…に）そらす」ではなく、「(…に）傾ける」の意味でとらえられていると考えられる。故に Haymo は (1) の declinare の意味を、「(…に）傾ける」とも「(…に）そらす」とも解釈しており、このとらえ方は筆者のそれと同じである。

46）Blaise (s.v. *declino* 1) は、(1)(29) において declinare が、(33)(34) におけるごとく「転嫁する、負わせる」（“rejeter sur, imputer”）の意味を持つとしており――実際この語義に “TAC.”（Tacitus）と付記している――よってこの動詞がこれらの箇所において、(23) におけるように「(…に）傾ける」ではなく、「(…に）そらす」の意味で用いられているとみなしている。

47）E. Dekkers et I. Fraipoint, *Sancti Aurelii Augustini Enarrationes in Psalmos I–L*, CCSL 38 (Turnholti, 1956), p. 116.

48）M. Adriaen, *Magni Aurelii Cassiodori Expositio Psalmorum I–LXX*, CCSL 97 (Turnholti, 1958), p. 186.

49）W. W. Skeat, *Aelfric's Lives of Saints*, vol. 2, EETS 94, 114 (London, 1890−1900), p. 314. (39) は *DOE*, s.v. *ahyldan* A.2.b の「逸脱の想念と共に」（“with the notion of deviation”）に、「(良い慣行を）逸脱させる」（“*ahyldan on aþer healfe* ‘to turn aside (good practices)’”）という表現の例として挙げられている。(39) の “ne . . . þeawas” の部分は、G. I. Needham (Ælfric: *Lives of Three English Saints*, rev. ed. (U. of Exeter, 1976), p. 44n) が指摘するように、ラテン語原文である ABBO.FLOR. Pass.Eadmund. 4.9 (M. Winterbottom, *Three Lives of English Saints* (Toronto, 1972), p. 71) の “gradiensque uia regia nec declinabat ad dexteram, extollendo se de meritis, nec ad sinistram, succumbendo uitiis humanae fragilitatis”（彼は王の道を歩み、手柄ゆえに得意になって右へも、また人間的な弱さによる罪に屈して左へも、それることはなかった）に由来しており、(39) の ahyldan はラテン語原文の自動詞 declinare が他動詞に自由訳されたものであるのがわかる。

50）(1)(29) の declinare は、注 4) および注36) で記したごとく、それぞれ A を含む 4 つの詩篇行間注解において onhyldan に訳されているが、J. Bosworth and T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary* (Oxford, 1898), s.v. *onhildan* I(2)(c) の

「正しい進路からそらす」（“*to turn from the right course*”）のもとに A の (29) の declinare に与えられた onhyldan が、また P. Mertens-Fonck, *A Glossary of the Vespasian Psalter and Hymns*, pt. 1 (Paris, 1960), s.v. *onhældan* [p. 159] の同じ語義（“to turn from the right course”）のもとに A の (1)(29) の declinare に当てられた onhyldan が、例として挙げられている。しかしこれらの箇所で本当に onhyldan が declinare の――「(…に) 傾ける」ではなく――「(…に) そらす」の意味を反映していると主張するためには、この動詞に (39) の ahyldan のごとき「(…に) そらす」の意味を表す用例――逸脱させる方向を示す表現を伴い、行間注解ではない例――が存在するかどうかを確認する必要がある。

On Old English *ahyldan* and Latin *declinare*

Satoru ISHIHARA

Latin *declinare* in *quoniam declinaverunt in me iniquitatem* (Ps 54:4) "for they brought down iniquity on—or diverted iniquity to—me" is rendered by *ahyldan* in some of the Old English Psalter glosses; and one of these instances is quoted in the *Dictionary of Old English*, s.v. *ahyldan* A.2.d.i: "to bend down, bring down, inflict (some evil)."

While *declinare* means "to deviate (from)" and "to bend downwards," it can also mean "to bend, incline (to)," e.g. *declina pauperi aurem tuam* (Sir 4:8) "incline thy ear to the poor." And in *quoniam declinaverunt in te mala* (Ps 20:12) "for they brought down evils on—or diverted evils to—thee," where *declinare* is used of directing some misfortune to a person in the same manner as in Ps 54:4, the verb is derived from κλίνειν "to bend, incline (to)" in the Septuagint. Furthermore, Old English *ahyldan* can be used in the same meaning, e.g. *& his earan beoð ahylde to heora benum* (ÆHomM 12 64) "and his ears are inclined to their prayers." All these facts show that the above interpretation of *ahyldan* rendering *declinare* in Ps 54:4 by the *DOE* is appropriate.

On the other hand, there are instances of *declinare* meaning "to deviate (to)," used of diverting something to another object, as in *fortunam in temeritatem declinando* (SAL. *Hist*. 2.15) "attributing the good luck to foolhardiness." And *declinare* in Ps 54:4 is used to translate ἐκκλίνειν "to deviate (to)" in the Greek original. Moreover, *ahyldan* can be used in the same sense, e.g. *ne on naþre healfe he ne ahylde his þeawas* (ÆLS (Edmund) 18) "nor did he deviate his practices to either side." Therefore, *ahyldan* used as a gloss to *declinare* in Ps 54:4 can be interpreted not only as "to bend down, bring down, inflict" but also as "to deviate (to)."